

【教育課程特例校制度による英語表現科の報告】

令和 年 月 日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

| | | |
|---------------------|----------|-------|
| 福島県 | | |
| 学 校 名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 郡山市立日和田小学校 (外 50 校) | 郡山市教育委員会 | 公立 |

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

| 学 校 名 | 自己評価結果の 公表場所・方法等 | 学校関係者評価結果の 公表場所・方法等 |
|------------------------|---------------------|------------------------|
| 郡山市立日和田小学校 (外 50 校) | 郡山市教育委員会にて閲覧 | 郡山市教育委員会にて閲覧 |

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野と英語に対する興味関心を持ち、進んで交流できる人材を育成するため、小学校及び義務教育学校 1・2 年生において、「生活科」の年間 10 時間に替えて、教科「英語表現科」を実施する。

語学指導外国人等を積極的に活用し、英語や外国文化に親しむことで小学校及び義務教育学校 3 年生以降に行う外国語活動や外国語科の学習の素地を養う。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

郡山市は、商業都市として経済活動が盛んであり、在留外国人の数は約 1,500 名を超える。市民レベルの国際交流も活発であり、外国語教育に対する関心も高く、学校教育における英語教育への期待も大きい。これまで教育課程の特例を受け、取り組んできた小学校英語に対する実績を継承し、さらに発展させていくためにも、引き続き特別の教育課程を編成して小学校低学年からの英語教育を実施する必要性があると捉えている。

令和元年度末において、教育課程特例校認定の期間が終了となる。これまで小学校 1 年生～6 年生で実施してきた「英語表現科」の実施学年を変更し、令和 2 年度より小学校 1・2 年生で実施する。なお、小学校 3 年生～6 年生は、新学習指導要領にそって実施する。

(3) 特例の適用開始日

令和 2 年 4 月 1 日

(4) 取組の期間

令和 5 年 3 月 31 日まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は、小学校 1・2 年生で「英語表現科」を実施し、学級担任や語学指導を行う外国人等との英語学習活動を通じて、異なる言語や文化への関心を高め、異文化を尊重できる心を育てるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるものである。本特例を実施している学校の中で、片平小学校では、授業にスモールトーク等の活動を多く取り入れたことで英語に慣れ親しむことができ、さらに学習した英語を日常的な場面で使用できるように工夫したことで、「聞く力」や「話す力」が高まった、との成果が上がっている。富田東小学校では、語学指導外国人との連携を図り、TTの体制作り、役割分担の明確化、テキストを利用した授業を実践したことで、児童の英語を使ったコミュニケーションに対する意欲が高まった、との成果が上がっている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「生活科」の時数の一部を充当して実施している英語表現科では、英語を用いながら自分の思いや願いをもって接することができる態度や、相手や場所を考えて接することができる態度を育て、学習指導要領に示す目標の達成に向けて取り組むことができている。本特例を実施している谷田川小学校では、低学年から体を動かしたり、語学指導外国人の発音をまねたりしながら英語に親しみ、楽しく学習することができ、中学年での外国語活動につながられた、という成果があがっている。市全体を通して、1・2 年生において英語でコミュニケーションを図ることへの興味・関心を高め、3 年生以降の英語学習に円滑に移行できる成果がみられている。また、各学校で実施した児童アンケートで、「英語を使って先生や友達と進んで楽しく学習することができましたか」という項目では、約 9 割が肯定的な回答をしている。さらに、保護者アンケートの「英語表現科の授業で、楽しく英語の学習をしていますか」の項目では、約 9 割が肯定的な回答をしており、保護者の理解も進んでいる。

一方で、教員を対象としたアンケートでは、授業で身に付けた英語を日常的に使う場面を設定するなどの工夫を図ることが、系統的に学習内容を積み上げ、コミュニケーション能力を高める上で必要であるという課題が指摘されている。また、語学指導外国人との連携の強化と小学校教員の指導力の向上が課題であるとも指摘されている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4で示された課題を踏まえ、英語に慣れ親しむことを目標とし、より実生活に近いコミュニケーションの場面を設ける等の授業の質的な改善と充実を図ることが必要と考える。そのために、学校訪問等での授業参観を通して、目的、場面、状況を明確にするための指導方法について助言等を行っていく。

また、小学校高学年・中学校の各学年段階において4技能5領域の能力の育成につなげるために、系統的な指導のポイントを各学校に示すとともに、内容や構成を工夫して作成した教材である「E-BOOK」とその指導計画の活用方法等を学校訪問や語学指導外国人を対象とした研修会等で周知していく。